

田頭Ⅱ遺跡

—第1次発掘調査報告書—

令和4年3月

株式会社 薬王堂

紫波町教育委員会

田頭Ⅱ遺跡

—第1次発掘調査報告書—

令和4年3月

株式会社 薬王堂

紫波町教育委員会

例 言

- 1 本書は、岩手県紫波郡紫波町桜町字田頭地内に所在する田頭Ⅱ遺跡第1次調査で実施した緊急発掘調査に関する報告書である。

2 調査概要

・田頭Ⅱ遺跡第1次調査

調査事由 株式会社 薬王堂新店舗建築に伴う緊急発掘調査

調査期間 令和2年12月7日～12月25日

調査面積 1426.6㎡

- 3 調査主体 紫波町教育委員会 教育長 佐美 淳
調査組織 紫波町教育委員会事務局 教育部長 八重嶋 靖
生涯学習課 課長 須川 範一（兼学習推進室長）
主任 岩館 岳
主事 上方 雄理
主任文化財専門員 鈴木 賢治

※調査担当及び本書の執筆及び編集は、鈴木賢治が行った。

- 4 本調査は、株式会社 薬王堂と紫波町教育委員会との間で締結された協定書に基づき、紫波町教育委員会が野外調査・室内整理及び報告書編集を実施した。本調査に係る費用は事業主体である株式会社 薬王堂に支出していただいた。

- 5 本書報告書の作成にあたっては、下記の方々にご指導・ご協力いただいた。（五十音順・敬称略）
岩手県教育委員会生涯学習文化課、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、（株）グランプラス（空撮・座標測量）、盛岡市遺跡の学び館

- 6 土層図は、堆積の仕方を重視し線の太さを使い分けた。

土層層相の色相観察は、小山・竹原著「新版標準土色帖」日本色研事業株式会社を使用した。

- 7 本書に記載した地形図は、国土地理院発行の5万分の1日誌を使用した。

- 8 各遺構名と遺構記号は次の通り。溝跡—SD、土坑跡—SK、柱穴—P

- 9 座標数値

基-1 X=-50248.557 Y=28404.531

基-2 X=-50224.937 Y=28398.446

- 10 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、紫波町教育委員会において保管している。

- 11 現場作業及び室内整理作業は、次の方々に参加・協力していただいた。（五十音順・敬称略）
一戸 幹矢、伊藤 敬子、稲垣 淳子、小川 和晃、小澤 功子、川又 達夫
小松 愛子、佐藤 ヒナ子、佐藤 房子、高橋 洗介、松岡 好一、吉田 千鶴子
吉田 良二

目 次

例 言
目 次
本 目 次
挿図目次

表 目 次
写 真 図 版
抄 録

本 目 次

1 遺跡の環境	1
(1) 位置	1
(2) 地形と地質	1
(3) 周辺の遺跡	2
2 調査の概要	4
(1) 調査に至る経過	4
(2) 第1次調査の概要	4
3 調査の成果	5
(1) 検出遺構	5
(2) 出土遺物	11
4 まとめ	13

挿 図 目 次

第1図 田頭Ⅱ遺跡 位置図 (1:50,000)	1
第2図 周辺の主な遺跡 位置図	2
第3図 第1次調査 遺構配置図 (1:500)	4
第4図 SK-01・SK-02土坑跡 平面図・断面図 (1:50)	6
第5図 SD-01溝跡 平面図・断面図 (1:200・1:50)	7
第6図 SD-02～SD-04溝跡 平面図・断面図 (1:100・1:50)	8
第7図 SD-05・SD-06溝跡 平面図・断面図 (1:100・1:50)	9
第8図 P1～P52 柱穴 断面図 (1:100)	11
第9図 出土遺物 (1:1)	12

表 目 次

表1	周辺の主な遺跡一覧表	3
表2	SK-01・SK-02土坑跡 SD-01～SD-06溝跡 埋土注記一覧表	10
表3	P1～P52 柱穴規模一覧表	10
表4	出土遺物一覧表	12

写 真 図 版

第1図版	田頭Ⅱ遺跡 第1次調査 空撮
第2図版	SD-01・SD-04溝跡
第3図版	SD-05・SD-06溝跡・SK-01土坑跡
第4図版	出土遺物

1 遺跡の環境

(1) 位置

本遺跡は、JR東北本線紫波中央駅から南東に約1km、岩手県紫波郡紫波町桜町字田頭地内に位置する。遺跡範囲は南北に約113m、東西に約123mと推測される。

(2) 地形と地質

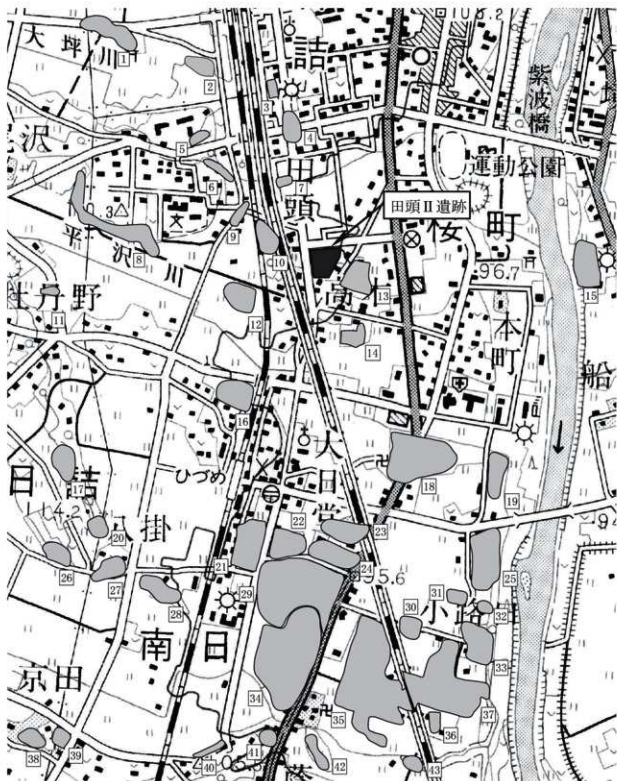
本遺跡の東側約1.1kmには、紫波町の中央を縦断するように北上川が南流する。平地は、西側一帯に奥羽山脈から流れ出て北上川に注ぐ滝名川・大坪川・五内川等の中小河川群によって、広く扇状地や氾濫低地が形成されている。北上川中流域西側の扇状地性段丘は、西根段丘・村崎野段丘・金ヶ崎段丘と大きく三分類されるが、紫波町内に相当するものとして、石鳥谷段丘・二枚橋段丘・都南段丘と命名された段丘群が知られている。



第1図 田頭Ⅱ遺跡 位置図 (1 : 50,000)

(3) 周辺の遺跡

本遺跡の北側に田頭遺跡・日詰西遺跡、南側に才土地遺跡、西側に桜町田頭遺跡、東側に桜町中屋敷遺跡などが所在する。また、紫波町内には、県指定史跡である川原毛瓦窯跡、舟久保洞窟、町指定史跡である陣ヶ岡陣営跡、樋爪館跡、高水寺城跡など貴重な遺跡が多く存在する。



第2図 周辺の主な遺跡 位置図

次数	遺跡名	住所	種別	遺構・遺物
1	桜町下野沢	桜町字下野沢	散布地	土師器
2	日詰下野沢	日詰字下野沢	散布地	—
3	日詰西Ⅱ	日詰西五丁目	散布地	掘立柱建物跡、溝跡、土坑跡
4	西裏	日詰字牡丹野	散布地	土師器
5	桜町中桜Ⅰ	桜町字中桜	散布地	縄文土器、石器、土師器
6	日詰牡丹野	日詰字中桜	散布地	土師器
7	日詰西	日詰西四丁目	散布地	竪穴建物跡、溝跡、土師器
8	平沢松田	平沢字松田	散布地	土師器
9	平沢松田Ⅲ	桜町字中桜	散布地	土師器、須恵器
10	田頭	桜町字田頭	散布地	土師器、須恵器
11	北日詰牡丹野	北日詰字牡丹野	散布地	縄文土器
12	桜町田頭	桜町字高木	散布地	土師器、須恵器
13	桜町中屋敷	桜町字中屋敷	散布地	竪穴建物跡、掘立柱建物跡 溝跡、土坑跡
14	才土地	桜町字才土地	集落跡	竪穴建物跡、掘立柱建物跡 土師器、須恵器
15	星山館	星山字間野村	城館跡	郭、空堀
16	北日詰下藪	北日詰字下藪	散布地	土師器
17	北日詰外谷地Ⅱ	北日詰字外谷地	散布地	縄文土器、石器、土師器
18	大日堂	北日詰字大日堂	集落跡	かわらけ
19	北日詰城内Ⅱ	北日詰字城内	集落跡	竪穴建物跡、縄文土器
20	北日詰外谷地Ⅳ	北日詰字外谷地	散布地	石器
21	北日詰東ノ坊Ⅳ	北日詰字東ノ坊	散布地	溝跡
22	北日詰東ノ坊Ⅰ	北日詰字東ノ坊	散布地	土師器、須恵器、かわらけ
23	北日詰東ノ坊Ⅱ	北日詰字東ノ坊、字下東ノ坊	散布地	土師器、かわらけ
24	北日詰東ノ坊Ⅲ	北日詰字東ノ坊	散布地	かわらけ
25	北条館	北日詰字城内	城館跡	土師器
26	北日詰字外谷地Ⅲ	北日詰字外谷地	散布地	石器
27	北日詰字外谷地Ⅴ	北日詰字外谷地	散布地	土師器、陶器
28	北日詰八卦	北日詰字八卦	散布地	土師器、須恵器
29	比爪館	南日詰字箱清水	城館跡	土師器、須恵器、かわらけ、陶磁器
30	南日詰大銀Ⅰ	南日詰字大銀、字小路口	散布地	土師器、かわらけ
31	南日詰下東ノ坊	北日詰字下東ノ坊	散布地	土師器、陶磁器
32	北日詰城内Ⅰ	北日詰字城内	散布地	土師器、須恵器
33	南日詰大銀Ⅱ	北日詰字城内、南日詰字大銀	散布地	土師器、須恵器
34	五郎沼	南日詰字箱清水	散布地	縄文土器、かわらけ
35	南日詰小路口Ⅱ	南日詰字小路口	散布地	土師器、かわらけ
36	南日詰小路口Ⅲ	南日詰字宮崎	散布地	土師器
37	南日詰小路口Ⅰ	南日詰字小路口	散布地	土師器、かわらけ
38	南日詰長根Ⅱ	南日詰字長根	散布地	縄文土器、石器、土師器
39	南日詰川原	南日詰字川原	散布地	土師器
40	南日詰蔭沼Ⅰ	南日詰字蔭沼	散布地	土師器
41	伝蛇塚	南日詰字箱清水	経塚	珠州系壺
42	南日詰田中Ⅰ	南日詰字田中	散布地	須恵器
43	南日詰田中Ⅱ	南日詰字甘木	散布地	土師器、須恵器

表1 周辺の主な遺跡一覧表

2 調査の概要

(1) 調査に至る経過

令和2年5月、調査地における株式会社 薬王堂店舗建設計画に係る協議があり、事業面積の規模、近隣遺跡での調査結果から事業予定地には埋蔵文化財が包含されることが予測される旨回答した。その後、令和2年9月14日付けで土地所有者から試掘調査の依頼があり、同年11月12日に重機による有無確認調査を実施した。その結果、竪穴建物跡、土坑跡、溝跡、柱穴状遺構が検出されたことから、同日付で岩手県教育委員会へ「田頭Ⅱ遺跡」として遺跡発見の通知を行い、土地所有者へは事業実施の際は記録保存調査を要する旨回答した。その後、同年12月1日付けで文化財保護法第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出が株式会社 薬王堂から提出された。同日付けで株式会社 薬王堂と埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定及び埋蔵文化財発掘調査費用負担契約を締結、12月3日から記録保存調査に着手し、12月25日に現地調査を完了した。

(2) 第1次調査の概要

位置 国道4号から西に約0.35km、盛岡南ショッピングセンター NACSから南に約0.25kmに位置し、南北38.7m・東西41.8mの範囲を調査した。

検出遺構 土坑跡2基、溝跡6条、柱穴52口

出土遺物 国産陶磁器



第3図 第1次調査 遺構配置図 (1:500)

3 調査の成果

(1) 検出遺構

SK-01 土坑跡 (第4図)

位置	調査区西側	平面形	不整形円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	緩やかに立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.77m～0.81m、下端0.48m～0.52m、深さ0.14mをはかる。				
埋土	A層～B層に大別する。A層は暗褐色土、B層は明黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

SK-02 土坑跡 (第4図)

位置	調査区北東側	平面形	不整形円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	緩やかに立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.59m～0.65m以上、下端0.28m～0.58m、深さ0.22mをはかる。				
埋土	A層～C層大別し、A層は2層に細分する。A層は暗褐色土、B層は黒褐色土、C層は明黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

SD-01 溝跡 (第5図)

位置	調査区西側	断面形	浅いU字状	重複関係	SD-02・SD-03を切る
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	緩やかに外傾し立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	全長51.5m以上、上端0.65m～0.82m、下端0.34m～0.62m、深さ0.12mをはかる。				
埋土	A層に大別する。A層は黒褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

SD-02 溝跡 (第6図)

位置	調査区南西側	断面形	浅いU字状	重複関係	SD-01に切られる
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	緩やかに外傾し立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	全長1.98m以上、上端0.57m～0.62m、下端0.38m～0.42m、深さ0.11mをはかる。				
埋土	A層に大別する。A層は暗褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

SD-03 溝跡 (第6図)

位置	調査区中央	断面形	浅いU字状	重複関係	SD-01に切られる
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	緩やかに立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	全長6.68m以上、上端0.49m～0.62m、下端0.32m～0.41m、深さ0.09mをはかる。				
埋土	A層に大別する。A層は暗褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

SD-04 溝跡 (第6図)

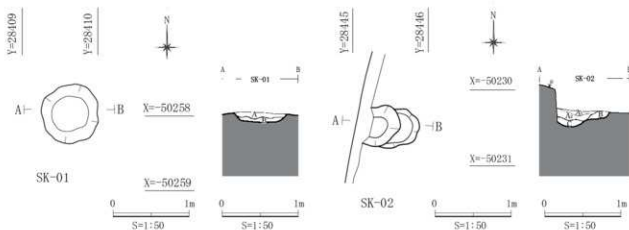
位置	調査区南東側	断面形	浅いU字状	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	緩やかに立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	全長6.12m以上、上端0.58m~0.63m、下端0.31m~0.38m、深さ0.12mをはかる。				
埋土	A層に大別する。A層は黒褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

SD-05 溝跡 (第7図)

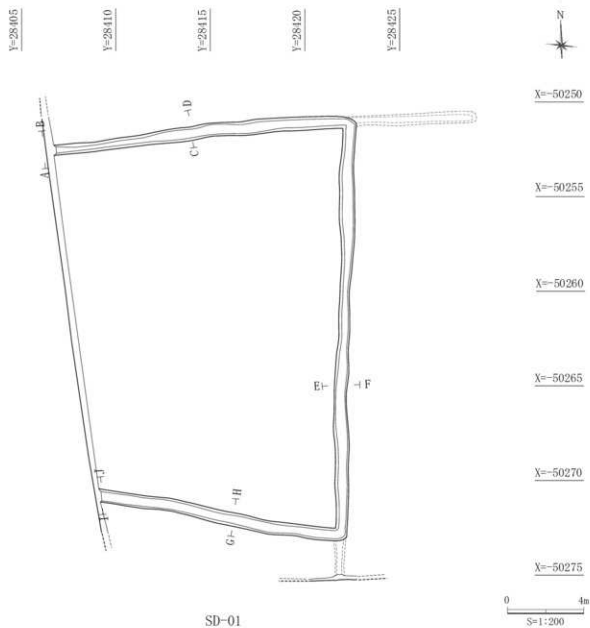
位置	調査区北東側	断面形	浅いU字状	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	緩やかに立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	全長12.4m以上、上端0.55m~0.78m、下端0.29m~0.52、深さ0.13mをはかる。				
埋土	A層に大別する。A層は黒褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

SD-06 溝跡 (第7図)

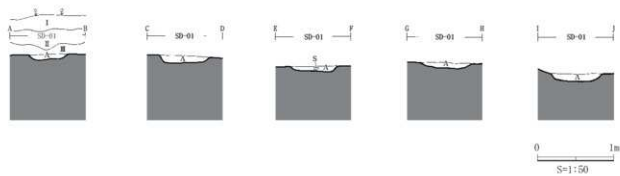
位置	調査区北東側	断面形	浅いU字状	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	緩やかに立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	全長1.8m以上、上端0.52m~0.73m、下端0.38m~0.48m、深さ0.12mをはかる。				
埋土	A層に大別する。A層は黒褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				



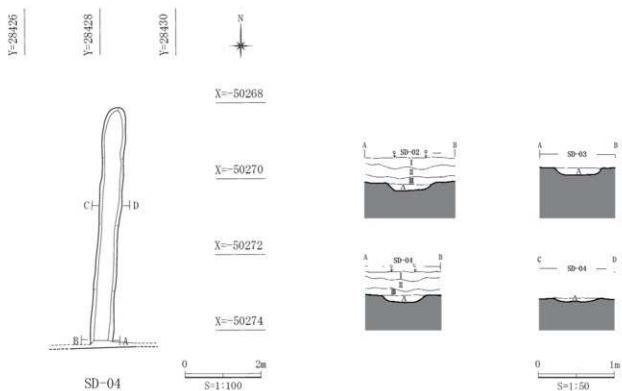
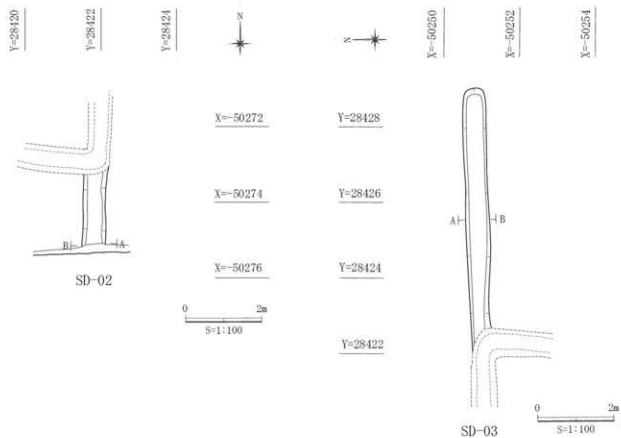
第4図 SK-01・SK-02土坑跡 平面図・断面図 (1:50)



SD-01



第5图 SD-01沟迹 平面图·断面图 (1:200·1:50)



第6图 SD-02~SD-04溝跡 平面図・断面図 (1:100・1:50)

Y=28434

Y=28436

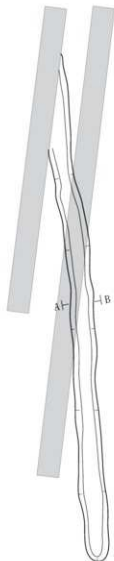
Y=28438



Y=28446

Y=28448

Y=28450



SD-05



X=-50238

X=-50240

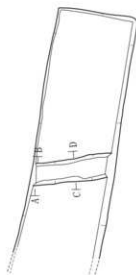
X=-50242

X=-50244

X=-50246

X=-50248

X=-50250



SD-06



X=-50222

X=-50224

X=-50226

X=-50228

第7图 SD-05·SD-06沟迹 平面图·断面图 (1:100·1:50)

SK-01

A 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B 層	明黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SK-02

A 1 層	黒色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
A 2 層	黒色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B 層	にぶい黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SD-01

A 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
-----	----------------------------

SD-02

A 層	暗色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
-----	------------------------------

SD-03

A 層	暗色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
-----	------------------------------

SD-04

A 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
-----	-----------------------------

SD-05

A 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
-----	-------------------------------

SD-06

A 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
-----	----------------------------

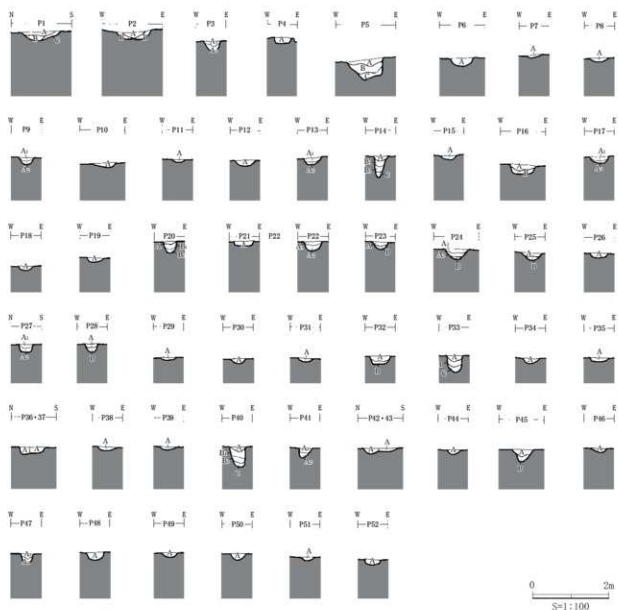
表2 SK-01・SK-02土坑跡 SD-01～SD-06溝跡 埋土注記一覧表

P1～P52 柱穴（第8図）

柱穴は52口検出した。また、埋土観察の結果、明確な柱痕跡を残すものは無かった。各柱穴の規模は次の通りである。

記号	上端 (cm)	深さ (cm)	記号	上端 (cm)	深さ (cm)	記号	上端 (cm)	深さ (cm)
P1	53	11	P21	25	7	P41	17	12
P2	47	10	P22	24	12	P42	20	7
P3	22	13	P23	20	10	P43	25以上	5
P4	23	8	P24	31	14	P44	19	6
P5	47	26	P25	27	10	P45	29	16
P6	31	10	P26	23	6	P46	20	6
P7	21	4	P27	17	11	P47	18	13
P8	23	5	P28	16	11	P48	24	10
P9	20	10	P29	21	5	P49	20	6
P10	34	8	P30	20	6	P50	20	9
P11	18	4	P31	19	4	P51	15	5
P12	27	9	P32	27	11	P52	21	7
P13	23	10	P33	21	22			
P14	20	27	P34	21	8			
P15	20	5	P35	24	6			
P16	34	14	P36	12以上	10			
P17	25	10	P37	20	8			
P18	17	6	P38	25	5			
P19	22	6	P39	22	5			
P20	18	15	P40	21	22			

表3 P1～P52 柱穴規模一覧表



第8図 P1～P52 柱穴 断面図（1：100）

(2) 出土遺物

今回の調査で、国産陶磁器が中袋で一袋発見した。その内、実測可能な出土遺物5点を図化し掲載した。

国産陶磁器（第9図）

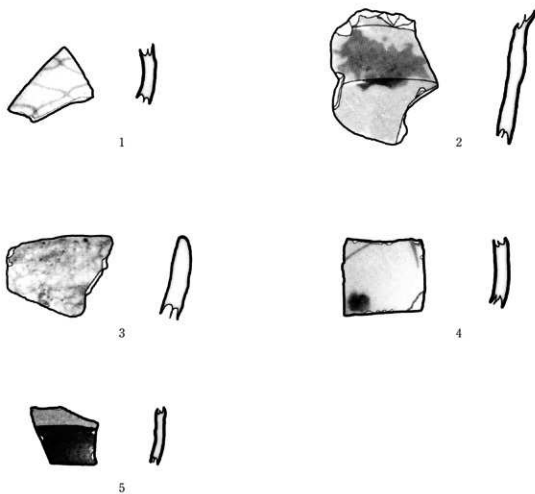
検出面から5点。1は肥前産染付碗の体部で、縦1.7cm・横2.4cm・厚さ0.6cmをはかる。一重網目文が描かれている。時代は17世紀頃と推測する。2は肥前産染付小坏の体部で、縦3.5cm・横2.8cm・厚さ0.4cmをはかる。時代は18世紀頃と推測する。3は志野産皿の口部から体部で、縦2.5cm・横2.9cm・厚さ0.5cmをはかる。時代は18世紀頃と推測する。4は肥前産染付碗の体部で、縦2.1cm・

横2.3cm・厚さ0.6cmをはかる。時代は18世紀頃と推測する。5は大堀相馬産碗の体部で、縦1.7cm・横1.8cm・厚さ0.3cmをはかる。時代は18世紀～19世紀と推測する。

国産陶磁器

番号	遺構名	出土位地	機種名	部位	縦 (cm)	横 (cm)	厚さ (cm)	備 考
1	検出面	—	肥前産染付碗	体部	1.7	2.4	0.6	一重網目文 17世紀頃
2	検出面	—	肥前産染付小坏	体部	3.5	2.8	0.4	18世紀頃
3	検出面	—	志野産鉄絵皿	口～体部	2.5	2.9	0.5	18世紀頃
4	検出面	—	肥前産染付皿	体部	2.1	2.3	0.6	18世紀頃
5	検出面	—	大堀相馬産碗	体部	1.7	1.8	0.3	18世紀～19世紀

表4 出土遺物一覧表



第9図 出土遺物（1：1）

4 まとめ

田頭Ⅱ遺跡第1次調査では、土坑跡2基、溝跡6条、柱穴52口を検出した。遺物は、土師器・国産陶磁器など中袋で1袋出土した。

・土坑跡

2基検出した。形状は、SK-01は不整形円形、SK-02は不整楕円形を形状とする。上端の規模は、SK-01が $0.77\text{m}\sim 0.81\text{m}$ 、SK-02が $0.59\text{m}\sim 0.65\text{m}$ 以上をはかる。各土坑の埋土中から遺物が発見されなかったため、構築された時代は不明である。

・溝跡

6条検出した。上端の規模は、SD-01が $0.65\text{m}\sim 0.82\text{m}$ 、SD-02が $0.57\text{m}\sim 0.62\text{m}$ 、SD-03が $0.49\text{m}\sim 0.62\text{m}$ 、SD-04が $0.58\text{m}\sim 0.63\text{m}$ 、SD-05が $0.55\text{m}\sim 0.78\text{m}$ 、SD-06が $0.52\text{m}\sim 0.73\text{m}$ をはかる。深さは、後世の削平により $0.08\text{m}\sim 0.13\text{m}$ と浅いものであった。SD-01はコの字状で検出され、まだ西側にのびるものと推測されるが、区画溝の可能性が窺える。SD-04・SD-05は、規模が概ね一致する事から繋がっていたものと推測される。各溝跡の埋土中から遺物が発見されなかったため、構築された時代は不明である。

今回の田頭Ⅱ遺跡は、初めて記録保存調査（本調査）実施する遺跡である。各遺構内から時代を判別する遺物が発見出来なかったことから、構築された時代は判然としない。しかし、当遺跡の西に約200mの地点に桜町中屋敷遺跡、南に約350mの地点に才土地遺跡が存在する。この隣接する遺跡からは、平安時代から中世の遺構が発見されている。以上のことから、関連する遺跡になる可能性も含め、隣接するエリアの発掘調査が進むにつれて、遺跡の様相及び性格が解明されることを期待したい。

<引用・参考文献>

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1972 紫波町 | 「紫波町史」第1巻 |
| 1979 岩手県教育委員会 | 「東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書-Ⅲ- |
| 2009 紫波町教育委員会 | 「才土地遺跡発掘調査報告書」 |
| 2020 紫波町教育委員会 | 「町内遺跡発掘調査報告書Ⅵ」 |

写 真 图 版



第1図版 田頭Ⅱ遺跡 第1次調査 空撮



SD-01 全景



SD-01 北側完掘



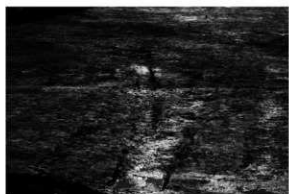
SD-01 断面



SD-04 完掘



SD-04 断面



SD-05 完掘



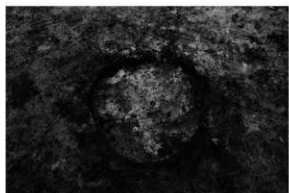
SD-05 断面



SD-06 完掘



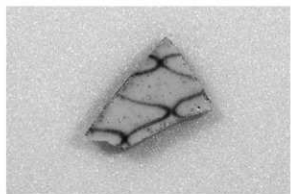
SD-06 断面



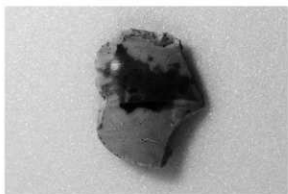
SK-01 完掘



SK-01 断面



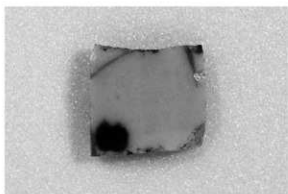
1



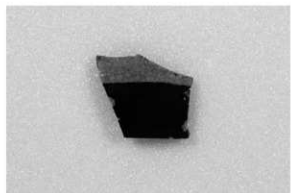
2



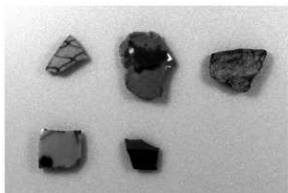
3



4



5



1~5

抄 録

ふりがな	たがしらにいせきだいいちじはくつちょうさほうこくしょ							
書名	田頭Ⅱ遺跡第1次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	紫波町文化財報告書2021							
シリーズ番号								
編集者名	鈴木 賢治							
編集機関	紫波町教育委員会							
所在地	岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3番地1							
発刊年月日	令和4年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たがしらにいせき 田頭Ⅱ遺跡 第1次調査	いわてけんしほふん 岩手県紫波郡 しほふんしやくくさくまらあび 紫波町桜町字 たがしらにいせき 田頭地内		LE67-1085	39° 32' 07"	141° 09' 51"	R2.12.7 ～ R2.12.27	1426.6㎡	株式会社 薬王堂 新店舗建築に伴 う緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
たがしらにいせき 田頭Ⅱ遺跡 第1次調査	さんぷろ 散布地	きんせい 近世	ど 土 坑 跡 溝 跡 けつ 柱 穴	こくさ 国産陶磁器 その他				

田頭Ⅱ遺跡 —第1次発掘調査報告書—

令和4年3月31日

- 編 集 紫波町教育委員会
〒028-3392 岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3番地1
TEL 019-672-2111(代) FAX 019-672-1553
- 発 行 株式会社 薬王堂
紫波町教育委員会
- 印 刷 永代印刷株式会社
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡一丁目8-30
TEL 019-636-0011 FAX 019-636-0099
-

